

令和3年度 決算の概要



ひょうご小野産業団地上空より撮影

1. 総括

◆コロナに負けない持続可能な『元気な小野市』の実現◆

令和3年度は、『コロナ対策の更なる充実と「新たな生活様式」への対応』『地域の活力と生きがいの創出』『子育て支援・教育環境の充実』『安全・安心の確保』『快適な都市空間の形成』の5つを重点項目とし事業を実施した。また、過去最多となる11回の補正予算編成を通じて、臨機応変にコロナ対策にも取り組んだ。

一般会計の決算額は、歳入233.4億円に対して歳出222.4億円となった。形式収支は11.0億円、繰越事業に必要な財源3.2億円を差し引いた実質収支は7.8億円の黒字となった。市債残高は、後年度に交付税措置の無い市債の発行を抑制したことなどにより、前年度から1.8億円減少し、215.2億円となった。また、基金残高は、地方交付税の配分増加やコロナ対策関連補助金の活用等により前年度に引き続き、財政基金の取崩しは行わず、前年度比1.6億円増の85.2億円となった。財政構造の弾力性を示す経常収支比率は90.5%で、前年度より0.2%改善し、財政健全化指標についても、全ての基準をクリアしている。



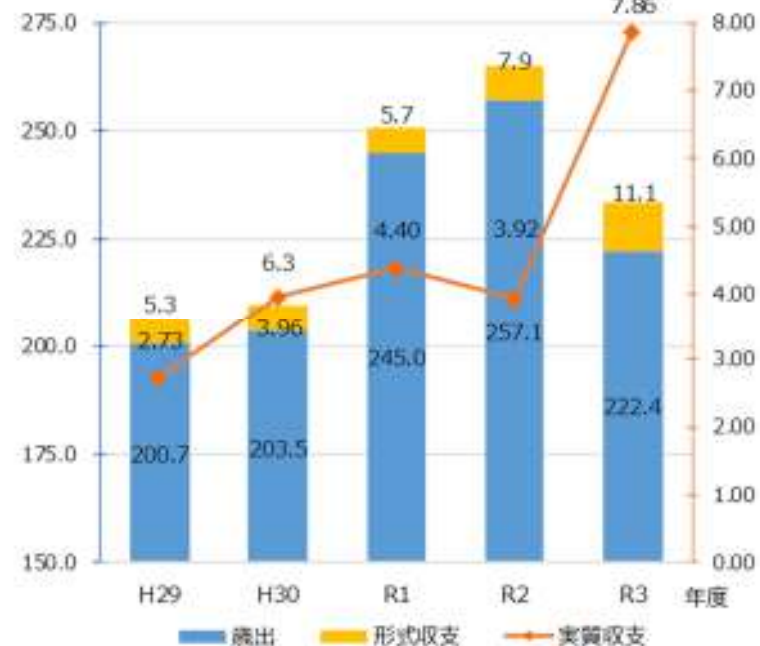
◆会計別収支決算の状況

(単位：千円)

項目	会計				合計
	一般	国民健康 保 険	介護保 険	後期高齢者 医 療	
歳 入	23,343,295	5,366,388	4,296,718	689,207	33,695,608
歳 出	22,237,704	5,233,241	4,177,794	671,243	32,319,982
形式収支	1,105,591	133,147	118,924	17,964	1,375,626
翌年度繰越財源	320,015				320,015
実 質 収 支	785,576	133,147	118,924	17,964	1,055,611
現 在	基 金	8,517,259	370,879	459,927	9,348,065
	地 方 債	21,515,871			21,515,871
高	債務負担行為に基づく翌 年度以降の支出予定額	1,640,156			1,640,156

◆一般会計決算額の推移

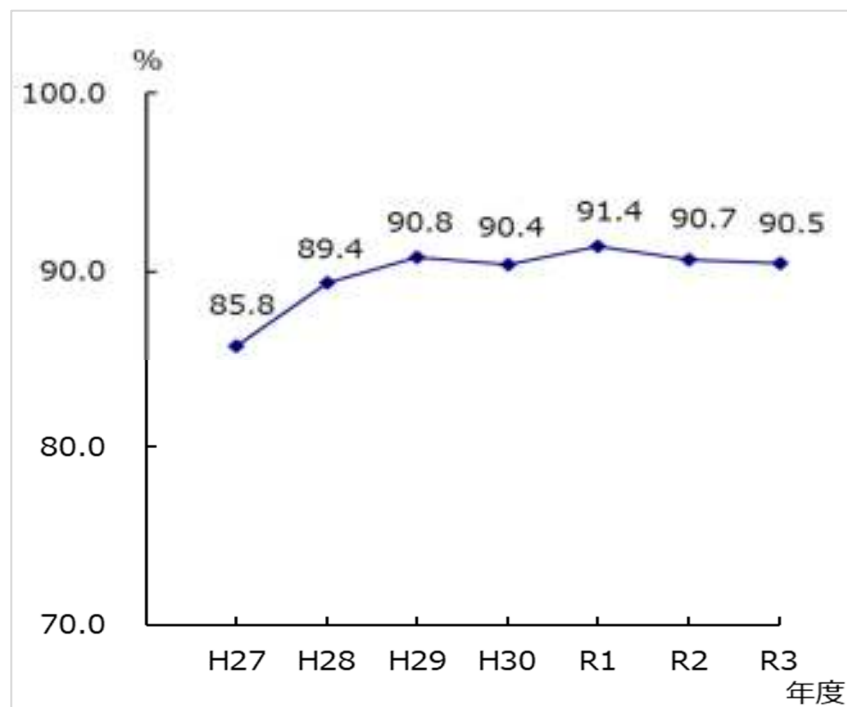
(単位：億円)



- 一般会計の歳入歳出差引額（形式収支）は11億559万1千円。この額から、翌年度へ繰り越すべき財源3億2,001万5千円を差し引いた**実質収支は7億8,557万6千円**で、このうち財政基金条例の規定により4億円を積み立て、その残額3億8,557万6千円を翌年度へ繰り越した。

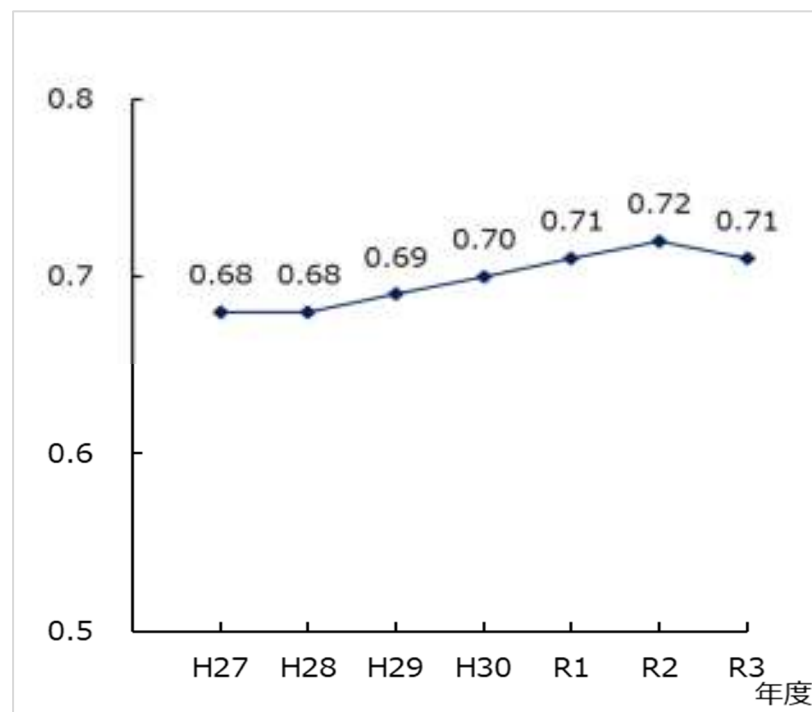
2. 経常収支比率・財政力指数の推移

◆経常収支比率の推移



- 経常収支比率とは、経常経費に充当された一般財源を経常的に収入される一般財源で除した比率。
- 財政構造の弾力性を示すもので、比率が高いほど財政の硬直化が進んでいることになる。

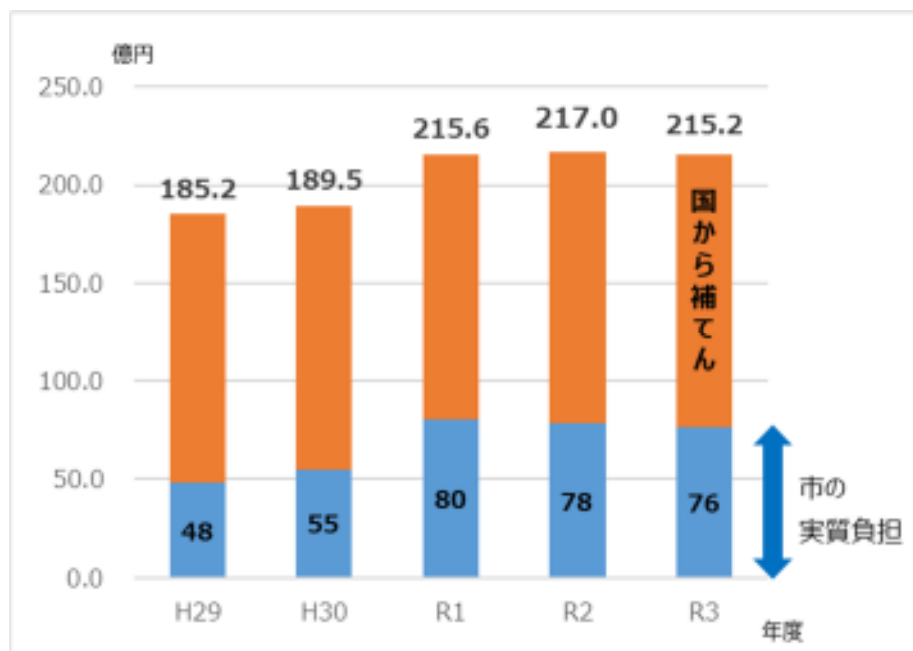
◆財政力指数の推移



- 財政力指数とは、基準財政収入額を基準財政需要額で除した指数（3か年平均）。
- 市の財政基盤の強弱を示し、指数が高いほど財政基盤が強いことになる。

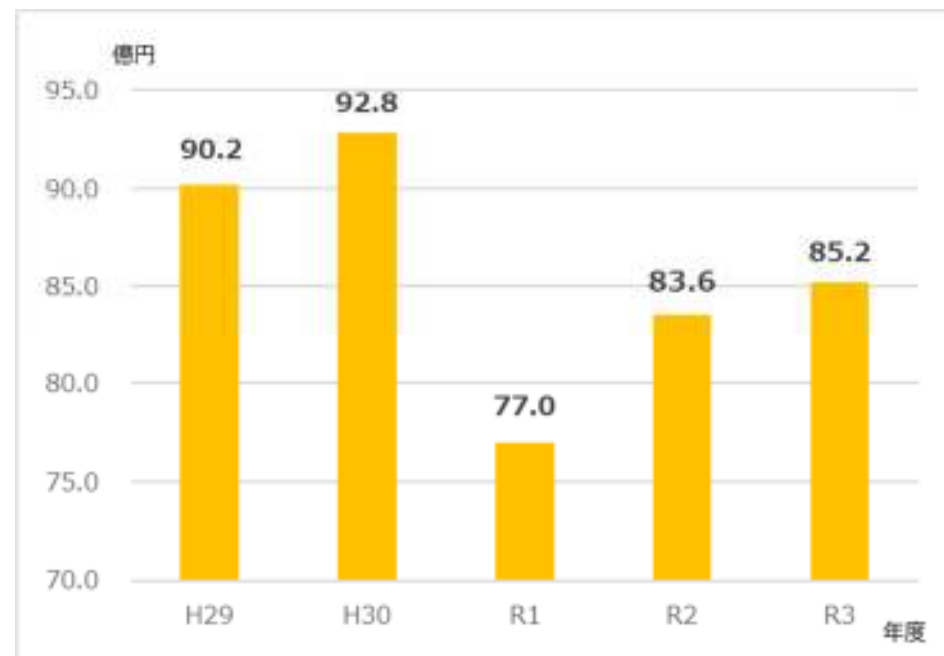
3. 市債(地方債)残高・基金残高の推移

◆市債(地方債)残高



- 借金にあたる市債残高は、後年度の交付税措置が無い市債の発行を抑制したことなどにより215.2億円となった。臨時財政対策債の全額、北播磨総合医療センター建設に要した出資債の2分の1など、後年度に国から補てんされるものを除いた実質的な市の負担額は約76億円となっている。


◆基金残高



- 預金にあたる基金残高は、地方交付税の配分増加やコロナ対策関連補助金の活用等により、前年度に引き続き財政基金の取崩しを行わなかったため、85.2億円となった。

4. 財政健全化指標

(単位：%)

	2017	2018	2019	2020	2021	判断基準	
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	早期健全化基準 	財政再生基準 
実質公債費比率	3.9	4.0	4.1	4.6	6.2	25.00	35.00
将来負担比率	△39.1	△32.9	12.5	5.7	2.1	350.00	—
実質赤字比率	赤字なし	赤字なし	赤字なし	赤字なし	赤字なし	13.04	20.00
連結実質赤字比率	赤字なし	赤字なし	赤字なし	赤字なし	赤字なし	18.04	30.00

※数値が低いほうが良好であることを示しています。判断基準の数値をオーバーすると、財政健全化計画などを作成し自主的な改善が義務づけられます。

- 4つの指標全てにおいて健全化団体の基準をクリアしている。
- 実質公債費比率は令和3年度単年度では7.6%となるが、3か年の平均値では6.2%となり、前年度比1.6ポイント増となった。
- 将来負担比率は、基金の増などにより、前年度より3.6ポイント改善している。

5. 企業会計の状況

(単位：千円)

区 分	令和3年度			令和2年度	収支増減	(参考)			
	収 入	支 出	差 引	差 引		一般会計繰入金 (令和3年度)	一般会計繰入金 (令和2年度)	繰入金増減	
都市開発	収益的収支	11,387	9,329	2,058	△1,870	3,928	—	—	—
事業会計	資本的収支	20,200	20,622	—	—	—	—	—	—
水 道	収益的収支	1,352,510	1,093,030	259,480	△187,124	446,604	1,347	1,421	△74
事業会計	資本的収支	503,734	877,690	—	—	—	—	—	—
下 水 道	収益的収支	1,636,539	1,484,256	152,283	127,552	24,731	654,343	649,693	4,650
事業会計	資本的収支	1,235,399	1,818,272	—	—	—	—	—	—
合 計	収益的収支	3,000,436	2,586,615	413,821	61,442	475,263	655,690	651,114	4,576
	資本的収支	1,759,333	2,716,584	—	—	—	—	—	—

※ 企業会計における資本的収支の不足額については、過年度分損益勘定留保資金等で補てん。

※ 水道事業会計、下水道事業会計の収益的収支は「税抜」、その他の収支は「税込」で表示。

重点項目 1. コロナ対策の更なる充実と「新たな生活様式」への対応

- **マイナンバーカードの普及促進（3,441万円） <新>**

オンラインでの行政手続きの需要増加を見据え、マイナンバーカードの普及促進。イオン小野店での出張窓口開設や、庁舎において日曜窓口開庁したことにより、マイナンバーカード取得率は50%を突破。（県内11位）



- **ワクチン接種及び体制確保（2億8,735万円） <新> <継>**

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、高齢者・医療従事者の優先接種を始めとしたワクチン接種を速やかに実施。集団接種のみならず、個別接種も市内医療機関と連携して実施。60歳以上の3回目接種率は、90%を超えた。（R4.7月末時点）

- **救急活動における感染防止の徹底（903万円） <新>**

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、患者を搬送する際に救急隊員等への感染リスクを低減させるため、感染防止衣やN95マスクなどの感染防止対策用品を整備。

- **所得制限を撤廃した、全子育て世帯への臨時特別給付金支給（8億1,776万円）（うち所得制限世帯分：2,963万円） <新>**

子育て世帯への生活支援として、市内在住の児童約8,150人の保護者に児童1人あたり10万円の給付金を所得制限無しで現金一括給付。

- **中小企業・飲食店などへの経営継続支援（6,155万円） <新>**

県の要請に応じて、営業時間の短縮（時短営業）に協力した市内事業者に対し補助金を交付。また、店舗の改修工事や備品購入などアフターコロナに向けて経営の維持・回復に取り組む事業者や、新型コロナウイルスの影響を大きく受けたバス、タクシー、旅行業者等に対して補助金を交付。

- **図書館へ図書除菌機の導入（137万円） <新>**

新型コロナウイルスの感染防止対策を行うことにより、市民がより安心して図書館を利用できるよう、図書除菌機を導入。1回あたり30秒で、最大6冊まで同時除菌が可能。



重点項目 2. 地域の活力と生きがいの創出

● 公設コンビニへの助成（964万円）〈継〉

買い物弱者の支援と災害時の食料供給拠点を兼ねた「公設コンビニ」への助成を継続。配達・送迎サービス、民生委員と連携した高齢者の見守りなど、地域の交流拠点としての役割も担う同施設の運営費を助成。



● 花づくりの拠点施設の整備（6,927万円）〈新〉

市内のガーデニングや学校・自治会等への花苗の提供など、「彩と香りのまちづくり」をテーマとして活躍する「おのガーデニングボランティア」の活動拠点として、ひまわりの丘公園に育苗ハウスを設置。育苗ハウス内には、ボランティア活動や体験型講座が開催できるスペースも確保し、参加者の交流によるコミュニティの醸成を目指す。



● 都市公園の休憩施設整備（1,337万円）〈新〉

コロナ禍で人々の生活スタイルが変化するなか、ひまわりの丘公園では、民間事業者が大規模マルシェ等のイベントを開催し、市外から大勢の利用者が詰めかけるなど、県内都市部からの人流が増加傾向にある。都市公園の魅力をさらに向上させ、利用者の憩いの場となるシェルター等の休憩施設を整備。



● 小野ハーフマラソンへの助成（1,100万円）〈継〉

2年ぶりに開催することになった「第8回小野ハーフマラソン」への助成を継続。大会実行委員会に対し、大会の運営費用及び新型コロナウイルスの感染防止対策の費用の一部の助成を行った。当日は、3,800人を超えるランナーが出走した。



重点項目 3. 子育て支援・教育環境の充実

- 高校3年生までの医療費完全無料化（2億4,202万円）

<継>

小野市の子育て支援の代名詞の一つである、高校3年生までの医療費完全無料化を継続。

- 老朽化した保育所園舎の増改築費用を助成（1億9,547万円）

<新>

老朽化した保育所園舎の改修費用の一部を助成し、安全安心な保育環境を整備。前年度から継続して改修を行っていた白百合保育園と、亀鶴保育所、中央保育所に助成。



- 妊婦健康診査費用の助成（2,506万円）<継>

妊婦が健やかな妊娠期を過ごし、安心して出産を迎えられるよう14回分の妊婦健康診査費を助成。令和3年度より、助成金額を従来の86,000円から100,000円に増額。

- 小野南中学校の長寿命化改良（8億6,900万円）<継>

築後40年以上が経過する小野南中学校の長寿命化改良事業を継続。令和3年度は校舎の改修工事が完了し、体育館の改修工事に着手。



- 学校トイレの洋式化・手洗場自動水洗化（1億812万円）

<継>

平成28年度以降、教育環境整備及び災害時指定避難所設定による機能確保の観点から、学校のトイレ洋式化を継続して実施。令和3年度末時点での洋式化率は81.4%を達成。



重点項目 4. 安全・安心の確保

- **コミュニティバスの運行（増車）（1億4,945万円）〈継〉**

高齢者など交通弱者の移動手段を確保するため、市内11ルートを運行。令和3年10月以降はバスを1台増車し、ノンステップバス8台とワゴンタイプ車両1台の9台体制とすることで、郊外ルートを週3日から週4日運行に増便し、更に利便性が向上。



- **防災倉庫の設置（1,515万円）〈継〉**

激甚化・頻発化する豪雨災害等に対応するため、指定避難所となる学校などに防災倉庫を整備。市内全ての小・中・特別支援学校と各コミセン（コミセンおのを除く）の計18箇所に防災倉庫の設置を完了。



- **通学路等の道路改良（6,882万円）〈継〉**

多くの児童生徒が通学路として利用する片山町・葉多町の市道107号線や大島町の市道4013号線などの道路改良を継続し、安全に通学できる環境を整備。



- **安全安心パトロールの展開（5,202万円）〈継〉**

専用車両8台、警察OBなど15名の専任隊員による市内全域の巡回を継続して実施。小野警察署と連携しながら、パトロールや登下校の見守り活動など、地域に根付いた防犯・交通安全活動を実施し、安全安心な地域社会の実現に貢献。

- **最終処分場の整備（3億224万円）〈継〉**

一般廃棄物最終処分場の第2期埋立地の改修工事が完了。近隣への環境に配慮した、不燃性ごみの埋立処分地として、今後も安定したごみ処理が可能となる。



重点項目 5. 快適な都市空間の形成

- **ひょうご小野産業団地整備の推進（8億5,272万円）〈継〉**
兵庫県と共同で整備する「ひょうご小野産業団地」と、基幹道路となる「新都市南北線（1工区）」の整備が完了。全8区画のうち7区画について分譲事業予定者が決定。500億円を超える投資と、500人を超える雇用が計画されている。



- **道路舗装のリニューアル（1億2,578万円）〈継〉**
王子町の市道201号線、高田町の市道2127号線などにおいて、国庫補助金を活用した舗装リニューアルを実施。また、地元要望箇所を中心に舗装修繕を実施し、通行車両等の安全性の向上と令和2年度比2倍以上の積極投資による経済対策を図った。
(令和2年度実績：6,096万円)



- **公園の照明LED化（5,269万円）〈新〉**
電気使用料の節減と利用者の満足度向上のため、国庫補助金を活用し、榊公園野球場と大池総合公園の照明をLEDに更新。
- **市役所旧庁舎の解体（3億1,817万円）〈継〉**
庁舎跡地の有効利用を図るため、旧庁舎等の解体工事を実施。



- **市役所新庁舎を起点とした新たな街づくり（425万円）〈新〉**
市役所周辺を中心に、商業施設の誘致や宅地の確保により新たな市街地の開発を目指すため、図書館東側区域の活用に向けた調査に着手。将来にわたって活気と賑わいが持続するまちづくりを目指す。

